

7. 10 花井家と木曽岬開拓

「八幡の語り草」第54話(41頁)

「八幡の語り草」を読むと、三重県の木曽岬と知多市八幡とは江戸時代から深い関連があることがわかる。

たとえば、木曽岬の開拓として、

寛永 16年 (1639年) 「鎌ヶ池新田」	寺本出身 早川藤蔵、大橋平左衛門 開拓
承応 2年 (1653年) 「和泉新田」	富田彦兵衛 開拓
承応 3年 (1654年) 「近江島」	花井播磨守作助、大橋六兵衛 開拓
承応 3年 (1654年) 「西対海地新田」	富田彦兵衛 開拓
寛文 4年 (1664年) 「葭ヶ須新田」	早川藤蔵、大橋勘左衛門 開拓
寛文 12年 (1672年) 「長池新田」	大橋勘左衛門,同与右衛門 開拓
寛文 12年 (1672年) 「中和泉新」	富田彦兵衛 開拓

知多半島全体がそうであるが、巾のせまい半島の中央部に丘陵が走っていて、そこに流れる川は数は多いが灌漑用として期待できる川ではなかった。そこで、丘陵の傍らにため池を作り、農耕用の水を確保した。狭い知多半島内では、農地を求めるることは、極めてきびしい状態であった。そこで、財力のあった者が中心となって、培われた土木技術を以て木曽岬の砂州や沼沢地の新田開拓にのり出していったようだ。

木曽岬には常在院というお寺があり、大祥院の末寺として建立されたという古文書がある。また、花井、富田、大橋という名字の人が今も多くいるという。

- 「八幡の語り草」 52 三重県木曽岬村訪問記
- 「八幡の語り草」 53 木曽岬の開拓と大橋家
- 「八幡の語り草」 54 花井家と木曽岬開拓
- 「八幡の語り草」 55 木曽岬開拓と富田彦兵衛